

感染症と戦争・軍隊

このコーナーで考えたいこと

人間は天然痘やインフルエンザなど、これまで何度も、多くのウイルスとたたかってきました。

近年では、人間の移動が世界的に広がるなかで、エボラ出血熱、エイズなど、新たなウイルスと出会い、感染症が発生しています。

いま、世界中で新型コロナウイルス感染症が広がり、多くの人々のいのちが危険にさらされています。

この脅威から、どのようにして身を守るか…。WHO(世界保健機関)や日本の厚生労働省は、手洗い・消毒などとともに、感染のリスクが高い「密閉」「密集」「密接」の「3密」を避けるよう呼びかけています。

三つの条件がそろう場所「3密」がクラスター(感染者集団)発生
のリスクが高い

換気の悪い
密閉空間



多数が集まる
密集場所



間近で会話や発声をする
密接場所

1970年以降の新興ウイルスの一覧

山内一也著『ウイルスと人間』(新版、2019年、岩波書店)をもとに作成

年	病気(原因ウイルス)	発生国・地域	宿主
1976	エボラ出血熱	ザイール	コウモリ
1977	リフトバレー熱	アフリカ	ヒツジ、ウシ
1981	エイズ	アフリカ	チンパンジー
1991	ベネズエラ出血熱	ベネズエラ	ネズミ
1993	ハンタウイルス肺症候群	アメリカ	ネズミ
1994	ブラジル出血熱	ブラジル	ネズミ
1997	高病原性トリインフルエンザ	香港	カモ
1998	ニパウイルス脳炎	マレーシア	コウモリ
1999	ウエストナイル熱	アメリカ	野鳥
2003	サーズ(SARS コロナウイルス)	中国	コウモリ
2003	サル痘	アメリカ	齧歯類
2004	高病原性トリインフルエンザ	アジア	カモ
2009	新型インフルエンザ	アメリカ、メキシコ	ブタ?
2012	マーズ(MERS コロナウイルス)	サウジアラビア	コウモリ
2015	ジカ熱	ブラジル	サル
2019	COVID-19(SARS コロナウイルス2型)	中国	コウモリ

ところで、この「3密」状態と切っても切れない関係にあるのが、軍隊であり、戦争です。

このコーナーでは、過去の戦争などの歴史的な事件を通じて、感染症の問題を考えていきます。

ウイルスをまん延させやすい 軍隊というシステム

「3密」状態がつきもの

集団行動を旨とする軍隊では、兵士たちは平時は狭い兵舎で集団生活を送り、戦場ではテントで寝起きをするなど、「密」状態がつきものです。

また、移動の際には兵士たちは、かつてはトラックや列車など、近年では航空機や艦船などの狭い空間に詰め込まれ、長距離の移動を余儀なくされます。

「密」な状態を強いられる軍隊は、ウイルスをまん延させやすい構造的特徴を持っています。



「密」な状態での訓練



原子力空母内で感染が広がった

異議申し立てが難しい構造

軍隊の目的は「戦争に勝つ」ことにあり、兵士の安全は二の次とされがちです。しかも、軍隊は階級による上下関係がきびしく、兵士は軍規に従わなければならない、異議申し立てが難しい環境下に置かれています。



移動の際も「密」がつきもの

移動先で未知のウイルスと遭遇

長距離移動と密集した軍隊生活に加え、衛生状態が悪い環境下で免疫力が低下し、移動先の慣れない土地で未知のウイルスと遭遇し、罹患する危険性もあります。

感染症と戦争・軍隊の歴史

世界では…①

十字軍やモンゴル軍の西方遠征

侵略にともなう大規模な軍隊の移動が感染爆発に拍車をかけた例としては、中世ヨーロッパにおける十字軍の遠征があげられます。

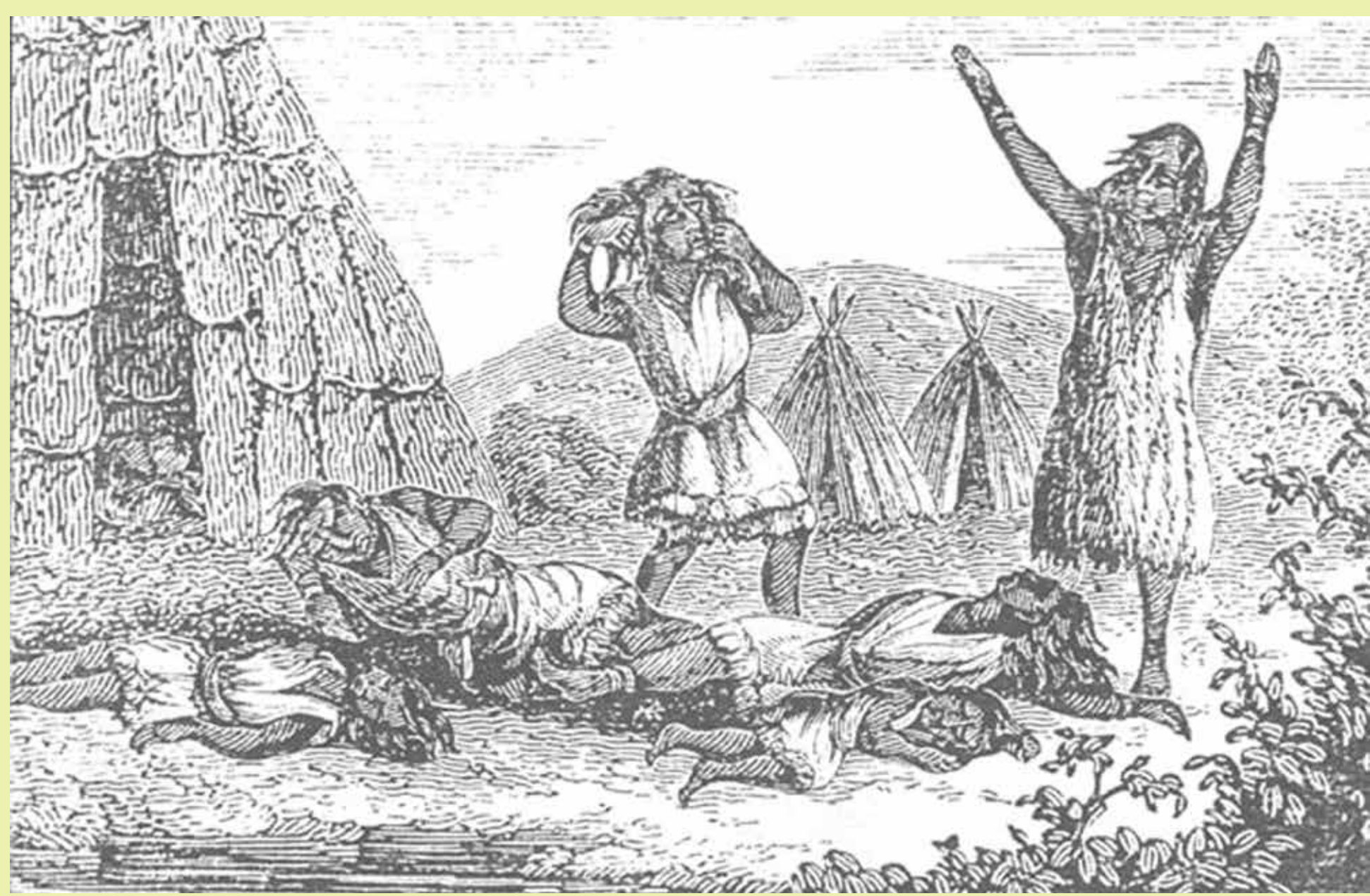
第1回（1096年）のときは、エルサレムを征服してヨーロッパへ戻る船がペスト菌を運び、第2回（1147年）、第3回（1189年）の際も、帰還船がペスト菌を運んだと言われています。

1347～52年にかけてのペストの流行では、モンゴル軍による西方への進軍が引き金になったという説があります。



クリミア半島のカフア城を攻撃する
モンゴル兵（左）（1346年）。

フレンチ・アンド・インディアン戦争



天然痘に汚染された毛布によって
犠牲になったインディアンたち

プロイセン、オーストリアの対立がきっかけとなり、イギリス・フランスなども参戦して、1754～63年にわたってヨーロッパ全土でたたかわれた七年戦争（最初の世界戦争といわれる）の際、この対立が北米大陸の植民地（当時）にまで飛び火。1755

～63年にかけてフレンチ・インディアン戦争となりました。

フランス軍はインディアンと同盟してイギリスと戦います。これに対してイギリス軍は1763年、和平交渉の席で、インディアンに「贈り物」と称して天然痘患者が使用していた毛布・ハンカチーフを渡しました。これにより、ウイルスの免疫を持っていなかったインディアンの多くが天然痘に感染し、いのちを落としました。

感染症と戦争・軍隊の歴史

世界では…②

シエラレオネ駐留イギリス軍

19世紀、西アフリカのシエラレオネに駐留したイギリス軍は、マラリアや、ツェツェバエによって媒介される牛・馬のアフリカ・トリバノソーマ症（眠り病）に悩まされました。このため長い間、ヨーロッパ人は海沿いの地域しか制圧できなかつたと言います。

シエラレオネ駐留英軍の出身地別死亡率（BIGISSUE より）

	アフリカ人	英国人
間歇熱 / 持続熱	6.9	3.3
その他熱病	2.4	406.9
呼吸器疾患	6.3	4.9
肝疾患	1.1	6.0
消化器疾患	5.3	41.2
脳疾患	1.6	4.3
水腫	0.3	4.3
その他	2.6	7.1
合計	26.5	478.0

「スペイン風邪」と第一次世界大戦

スペイン風邪による推計死亡者数（BIGISSUE より）

世界全体	4880万人—1億人
アジア	2600万人—3600万人
インド	1850万人
中国	400万人—950万人
ヨーロッパ	230万人
アフリカ	238万人
西半球	154万人
米国	68万人
日本	39万人



米・カンサス州の軍施設に収容され、療養する「スペイン風邪」に感染した兵士たち（1918年）。

塹壕（溝を掘り、その土を積み上げて敵の攻撃に備える防御施設）戦となった第一次世界大戦（1914～18年）では、狭く、不衛生な穴のなかを移動して戦闘行為をおこなったため、チフスなどの感染症が広がりました。

また途中から参戦したアメリカが、本土の基地内でインフルエンザが流行し始めていたにもかかわらず、ヨーロッパ戦線に展開したため、ヨーロッパ各地をはじめ、ロシア、アフリカ、東南アジア、中国などにも感染が拡大。「スペイン風邪」と呼ばれました。

「スペイン風邪」の名称は、アメリカなどが「兵士の士気にかかわる」としてインフルエンザの情報を統制した一方で、中立国だったスペインの情報が世界に流布されたためでした。

感染症と戦争・軍隊の歴史

日本では…

満州の731部隊

1931年から1945年8月の日本敗戦に至るまでのアジア・太平洋戦争（15年戦争）の間、日本の医学者・医師たちは、おもに海外の地で、何万人ともいわれる人々を、実験の材料や手術の練習台として殺害しました。なかでも満州の731部隊が有名です。



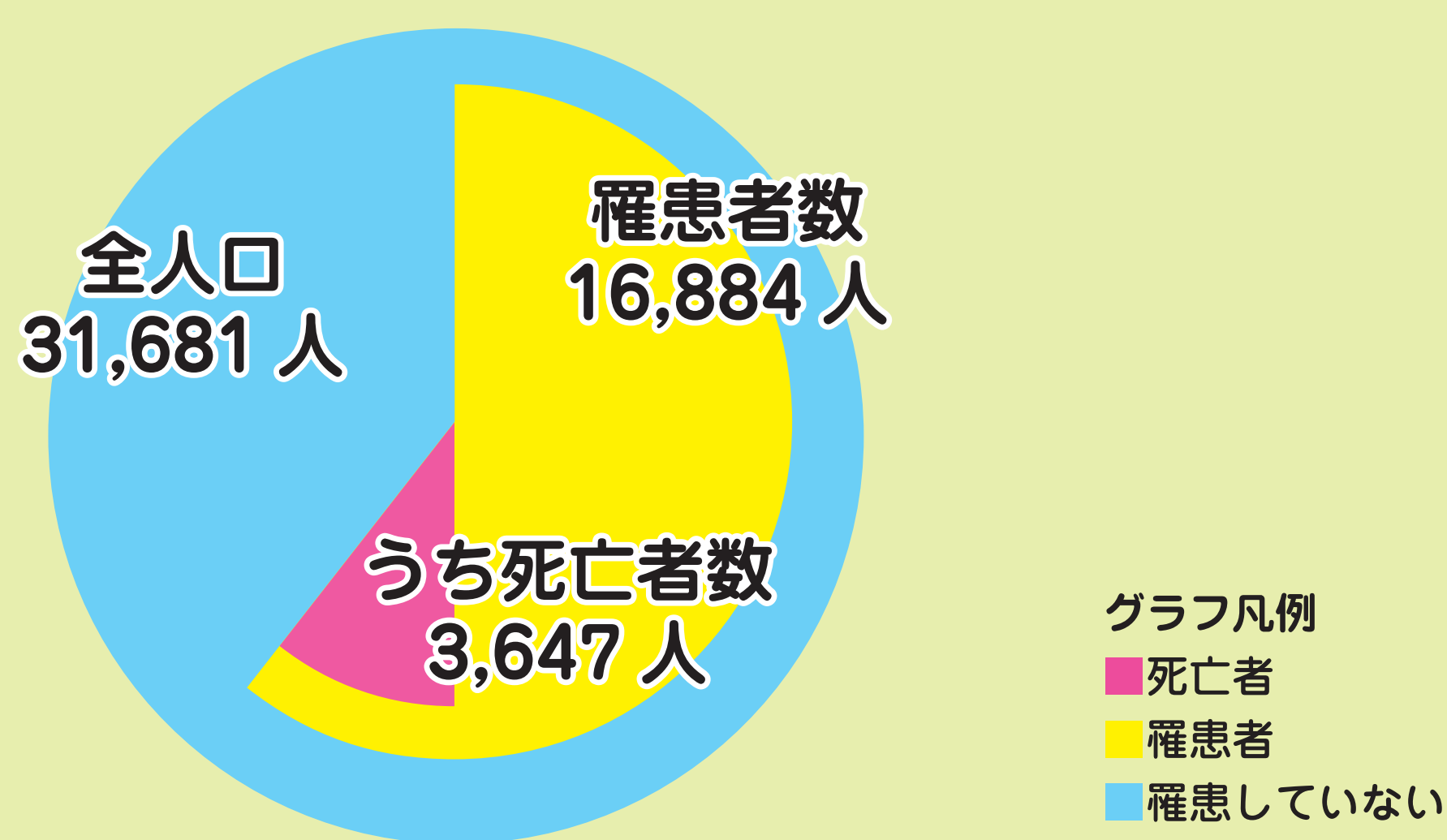
「マルタ」と呼ばれた人体実験の被験者は、憲兵隊によってとらえられた反満・抗日活動家などで、中国人のほかにロシア人、朝鮮人なども含まれ、女性や子どもも収容されていたことが明らかになっています。少なくとも3000人が送り込まれ、一人も生きて帰れませんでした。

沖縄戦・戦争マラリア



八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑（石垣島）

戦争マラリアの犠牲者数



アジア・太平洋戦争の末期、沖縄を本土決戦のための時間稼ぎの「捨て石」とした日本軍は、作戦遂行と軍の食糧確保、住民が米軍の捕虜になったときの情報漏洩防止などの目的から、八重山・宮古諸島の住民を当時マラリアの有病地帯だった西表島や石垣島のジャングル地帯への移動を強制しました。

強制移住させられた住民は、「密」な生活を強いられ、食糧難による栄養失調も重なってマラリアに感染。多くの方が犠牲になりました。

米軍・自衛隊における 感染の状況

米軍における感染の状況

米軍内でのコロナ感染は、米原子力空母「セオドア・ルーズベルト」の乗員4800人のうち1150人以上が感染したと、米軍関係の記事を掲載する専門誌「星条旗」(2020年4月30日電子版)が報じたことで明るみになりました。

2020年7月13日には、米軍横田基地(東京)をはじめ、日本全国の主要な基地で感染者が出たことが明らかになっています。



集団感染が起きた米原子力空母「セオドア・ルーズベルト」



米軍横田基地コロナ感染者累計人数
(2021年7月～22年6月)

自衛隊における感染の状況

2022年3月9日現在で、防衛省発表資料によると全国で1万5848人へのぼるなど、自衛隊内のコロナ感染も深刻です。埼玉県内でも航空自衛隊入間基地をはじめ、主要な基地のすべてで感染者が発生しました。

米軍同様、自衛隊も日常的に集団行動をとるなど「3密」となり、クラスターが発生しやすい状況にあります。



集団感染が起きた防衛医科大学校(所沢)

頻繁化する日米共同訓練

また、感染が広がる米軍との共同訓練が、全国各地で頻繁におこなわれています。自衛隊内の集団感染は、起こるべくして起きたと言っても過言ではありません。

浮かび上がった 日米地位協定の矛盾

米国から毎日のようにチャーター機が

日本政府は「水際対策」として、米国本土からの外国人の入国を「特段の事情がない限り、上陸を拒否する」としています。

しかし、在日米軍施設・区域から入国する米軍関係者は「対象とはなり得ない」（茂木外相答弁）とされ、米国から直行するチャーター便が毎日のように三沢基地、横田基地、岩国基地、嘉手納基地に飛来しています。

政府は米軍の入国規制せず



外務省・防衛省との交渉



毎日のように飛来する米軍のチャーター機

日米地位協定の第9条第2項で「合衆国軍隊の構成員は、旅券及び査証に関する日本国の法令の適用から除外される」と規定されています。パスポートもビザも持たず、日本の検疫も受けることなく、フリーパスで日本の地を踏むことができるのです。

地位協定第5条は「受け入れ国内における移動の自由、公の船舶・航空機の出入国、基地への出入り権」を認めており、日本に入国してしまえば、どこへでも自由に行くことができるとされています。

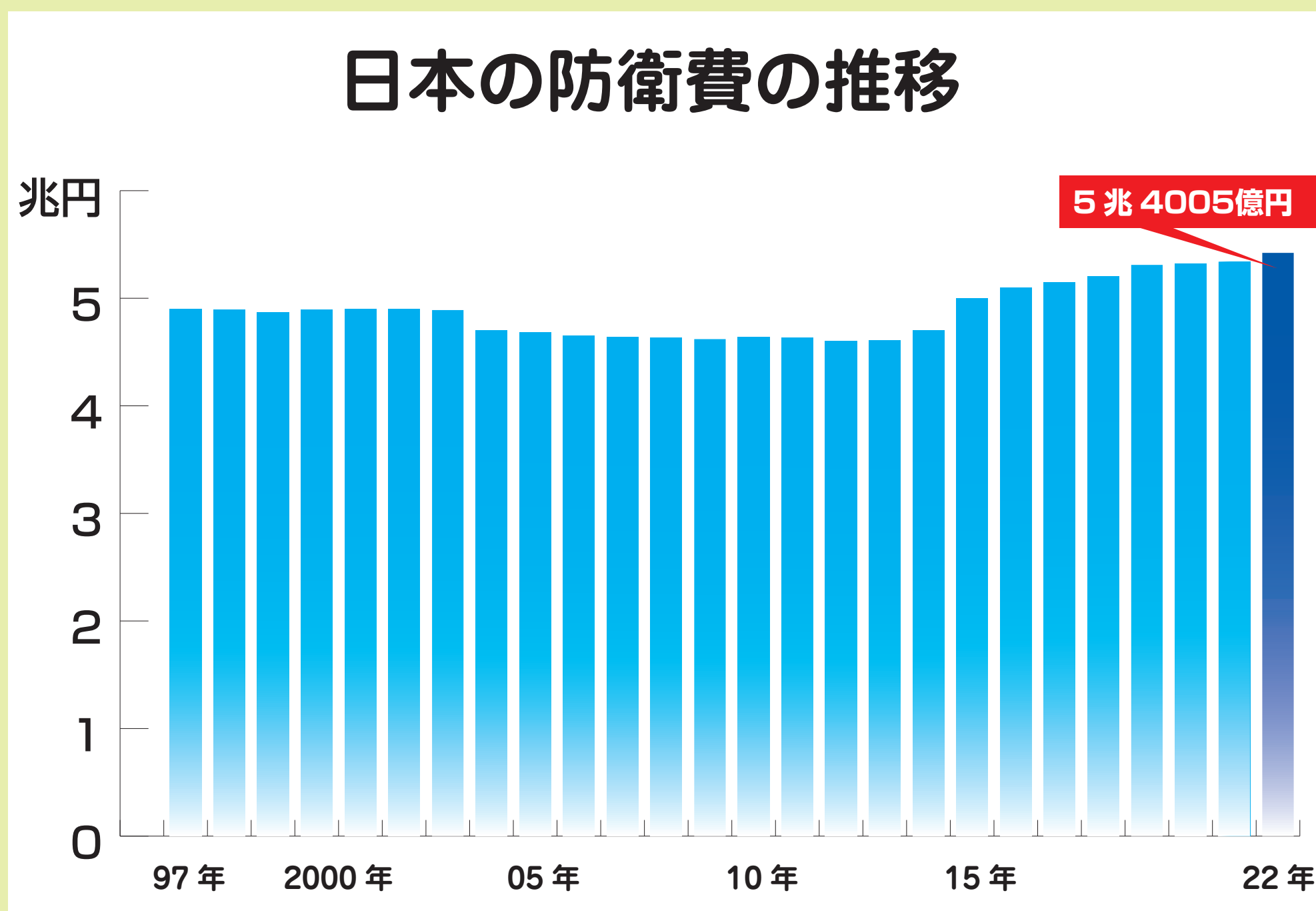
「緊急事態宣言が発令されている期間だけでも、米軍の出入国を規制すべき」「訓練の中止を要請すべき」との要求に対して、日本政府は「米軍の運用にかかわること」としてコメントをしません。

「玄関を閉めても、裏口が開いている」とは、まさにこのことです。

玄関を閉めても裏口が開いている

軍事費を削って コロナ対策などに

軍事費が増えれば医療などは後退



2022年度予算は、コロナ感染の最中なのに、社会保障費の自然増分の2200億円を削ったうえ、コロナ対策は名ばかりで、大半がコロナ後を見越した経済対策費でした。軍事費も5兆4005億円と8年連続で過去最高

額となり、10年連続で前年度を更新しました。

一方、コロナ禍で医療体制も病床も不足し、医療崩壊が起きているにもかかわらず、公立・公的病院の統廃合をすすめるようとしています。

核軍事費をコロナ対策にまわすと…

沖縄・辺野古への米軍のための新基地建設費は、沖縄県の試算によると2兆5500億円。これを中止すれば、日本医師会が要望しているコロナ危機に対する医療機関への支援金の2兆2878億円に充てることができます。

国際的な非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）の試算では、米国の核兵器予算3兆8000億円を医療費に充てると看護師15万人、医師7万人の給与を賄うことができると言います。

韓国では実際に、2020年度の国防予算の3.6%にあたる約1兆7700億ウォン（約1600億円）を削減し、コロナ対策の財源としています。

核軍備費を新型コロナ対策の医療費に使うと

	米国	英国	フランス	日本
核軍備費	351億ドル (約3兆8000億円)	72億ポンド (約1兆円)	45億ユーロ (約5600億円)	1兆1000億円
集中治療用ベッド(床)	30万	10万	10万	1万5000
人工呼吸器(台)	3万5000	3万	1万	2万
看護師(人)	15万	5万	2万	7万
医師(人)	7万5000	4万	1万	1万

日本の防衛費にあてはめると

※米国、英国、フランスはいずれも2019年分、ICAN調べ。日本は20年度予算のうち戦闘機や武器の新規購入分、ICAN国際運営委員会川崎哲氏らへ

いのち最優先の政治を！